

東京大学東洋文化研究所
附属東洋学研究情報センター

平成16年度事業報告

東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

設 立 平成 11 年 4 月 1 日
所在地 〒113-0033
東京都文京区本郷 7-3-1
電 話 03-5841-5839
FAX 03-5841-5898
URL <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

現状と課題（平成 16 年度）

はじめに

東洋学研究情報センター（Research and Information Center for Asian Studies、以下、センターと略）は、東洋学文献センター（1966 年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、平成 11（1999）年 4 月 1 日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。具体的には、「アジア地域の人文・社会科学（文献・造形資料、現代的諸課題）に関する資料・情報の収集・研究とその情報化」に関する事業を担っている。

センターの研究分野は、造形資料学分野と比較文献資料学分野とに分かれる。造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、漢文や中国語に限らずさまざまなアジアの言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授・助教授各 1 と、比較文献資料学分野担当の教授・助教授各 1 に、それらを補佐する助手 1、さらにセンター教員と協力してプロジェクトを推進する客員教授 1 からなる。

また、上記の文献・造形資料学の研究に加えて、新たにアジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを一昨年度から開始した。こうした新事業の展開を通じて、研究所が行うアジア各地域・各分野に関する先端的な研究を支えるアジア資料学の構築に加え、アジア研究情報を収集・加工・発信する研究情報センターとしての機能がさらに強化され、また学界や社会に対して大きな貢献がなされることが期待されている。

平成16年度は新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、新規事業への取り組みをおこなった。新規データベース・プロジェクトでは、所蔵中国語雑誌及び関連雑誌記事、東文研所蔵タイ語資料、中央アジアの伝統的な地域社会組織などを、研究情報プロジェクトでは、東京大学附属図書館所蔵南アジア写本のデジタル化、南アジアの言語の辞書デジタル化、旧東方文化学院蔵考古資料のデジタル化を実施。主なセンタープロジェクトとして、データベース・プロジェクトでは、中国絵画デジタル・アーカイヴ、イスラーム地域文献資料、「荒木文書」、貴重漢籍の補修とデジタル化、在外日本企業作成資料、イスラーム地域造形資料などを、また研究情報プロジェクトでは、アジアの世論調査の現状と展望（アジアバロメーター）、アジア研究情報ホームページの各プロジェクトを実施し、その成果の一部をセンターのウェブサイト上で公開した。また、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施した。（個別のプロジェクトについては別表参照）

また、成果普及活動としては、漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニュースレター『明日の東洋学』と文献目録資料『東洋学研究情報センター叢刊』二点を刊行した。全国文献・情報センター長会議やセミナーの主催をはじめ、学内外の関係機関との交流にも努めた。

A 人員・施設

1. 教職員

研究情報センター長	教授（併任）	田中 明彦
研究情報センター主任	教授	長澤 榮治
	教授	丘山 新
	助教授	ティムール・ダダバエフ
	助教授	榭屋 友子
	助手	大田 省一（6月まで）
	客員教授	濱下 武志
業務掛	掛長	江川 和子

2. 施設

現在面積

事務室	64	平方米
作業室1	24	〃
作業室2	48	〃
計	136	平方米

B 本年度実施状況

1. センタープロジェクト

研究情報の収集、資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを募集し、実施している。

重点プロジェクト……センター予算によって重点的に実施するもの。

試行プロジェクト……重点プロジェクトに移行することを目的として、試行的に実施するもの。

一般プロジェクト……センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

重点プロジェクト

① 貴重漢籍の補修とデジタル化 / 丘山 [文献]

全体計画

東洋文化研究所には漢籍約8万点所蔵されるが、なかでも320点(タイトル数:537件)は学術・文化的に非常に貴重な資産である。この貴重な漢籍を将来にわたって保存することを目的とし、一般利用・公開のためにすべてをデジタル化する。現在、国内外の研究機関や図書館で公開されている展示用の漢籍の画像データベースと異なり、本格的な研究に資するデータベースを構築する。また、一部痛みの激しいものは、早急に補修する。

今年度の進捗状況

東文研所蔵の漢籍の中で、貴重漢籍として320点(タイトル数:537件)を選定し、そのうちマイクロ化・複本化されていないもの90点マイクロ化・複本化した。それらを含めて、16年度は科学研究費基盤Aとデータベース科研により、230件をデジタル撮影した。さらに、それらをインターネットで公開するために、データベース・プログラムを設計し、必要な情報を付加し、2005年5月より公開予定である。

成果物 [予定][Web公開]

「東洋文化研究所所蔵漢籍善本全文影像資料庫」として、
<http://neworiens.ioc.u-tokyo.ac.jp/kanziim/>で公開準備中

② 西アジア近代史文献資料データベース構築 / 長沢 [文献]

全体計画

西アジアのアラビア文字近代史文献資料のデータベース化を進める。具体的には西アジア近代史の基礎資料である公的刊行物(官報・議会資料・地誌・法制史資料など)を取り上げ、これらの資料の様式と特徴、また利用方法についての研究を行い、電子情報入力と整理を行い、検索システムを設計し、データベースを構築する。

今年度の進捗状況

エジプト社会史の基本資料である貴重書アリー・ムバーラク『エジプト新編地誌』の索引検索データベースの立ち上げを行った。今年度は第一段階としてカイロにかんするそのために検索システムなどのプログラム開発を行い、その内容を検討した。西アジア各国の議会・法制史資料については、エジプト議会議事録について日程表および下院の付録資料索引を作成し、議事録利用のための手引きの基礎資料作成する準備を行った。

具体的な成果物 [Web 公開]

エジプト新編地誌データベース <http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShiIndes.html>を公開

エジプト議会議事録利用の手引き（2005 年度にウェブサイト公開あるいは出版を予定）

3 東洋文化研究所所蔵「荒木文書」のデジタル情報化 / 大田 [造形]

全体計画

建築を含めた造形史料整理に関して、東方文化学院旧蔵写真乾板の整理に着手し、基礎目録を作成する。乾板そのものやデータの公開体制が整っていないため、まず所内限定版の目録を作成する。また、昨年度までに作成した図様データの公開のための作業を行う。清朝建築図様図録を東洋文化研究所叢刊として刊行し、総合研究博物館での関野展、北京故宮博物院での清朝建築図面展への展示参加の準備をする。

今年度の進捗状況

約五千余枚の東方文化学院旧蔵写真乾板調査は 60%達成。九百枚ある明治期営業写真家山本讃七郎中国関連写真乾板の調査・デジタル撮影・データベース化は終了（100%達成）。千余枚の鳥居龍蔵・関野貞等の写真乾板は、調査とデジタル撮影が終了、データベース化待ちの状態（50%達成）。2004 年 7 月北京での『様式雷図档国際シンポジウム』に出席・発表、同年 8 月中国国家図書館開催『様式雷図档展』には本所所蔵清朝建築図様を出陳。また、『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築図様図録』を研究所叢刊として刊行した。

具体的な成果物 [刊行物]

- ・ 東洋文化研究所叢刊第二〇輯『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築図様図録』（大田省一・井上直美共編著、東洋文化研究所、2005 年 3 月発行）

4 中国絵画資料の収集とデジタル化 / 板倉 [造形]

全体計画

これまで当方は東アジア美術部門の写真アーカイブのデジタル化を目的として進行してきた。その成果として「中国絵画総合図録」の正編全て及び続編の一部の書誌データを元に「中国絵画所在情報データベース」を作成、公開しており、研究者のコンセンサスの確立に大いに寄与している。しかし、開始して数年の間にもデジタル画像を取り巻く技術・環境は大きく変化し、作品も近年の経済動向に連動して大きく移動していることも事実である。そのため、今回は、未了の写真フィルムのデジタル化を継続し、続編の残るデータを全てデータベースにくわえた上で、国内を中心とした中国絵画調査を行い、さらなる充実を図っていきたい。

今年度の進捗状況

今年度は「中国絵画総合図録」続編データ全てのチェックを終了し、既に公開済み。国内外の研究者からも少なからぬ反響があった。又、画像を搭載したデータベース公開準備として、さらにフィルムのデジタル化を進め、ソフトを改良、搭載する画像の試作を行った。同時に、日本におけるアジア絵画史研究の目録を作成中。その一部を来年度公開予定。

具体的な成果物 [Web 公開]

「中国絵画所在情報データベース」 続編データをアップし、公開中。

「日本における東アジア絵画史研究」 来年度一部を公開予定

5 アジアバロメータ データベース / 猪口・田中 [研究情報]

全体計画

本研究はアジア諸国において世論調査を行い、その結果を通して、「アジアの人々の共通の価値観」、「アジアに生きる人々が共有するアイデンティティは存在するのか」を問うことである。具体的には、調査で得られたデータをデータベース化し、アジアの人々の日常生活の視点からアジアにおける発展過程と人々の交流の将来性について予測を行うことで、アジア諸国間の関係のあり方を検討する。

今年度の進捗状況

2003年度は、東京大学奨学寄付金（企業からの寄付）を活用し、アジア10カ国（日本、韓国、中国、マレーシア、タイ、ベトナム、ミャンマー、インド、スリランカ、ウズベキスタン）ですでにパイロット研究を実施した。また、その成果の公開のために、データ編集、分析などを行った。そして、アジアバロメータ2003のすべてのデータをソースブックとして刊行した（CD-ROM）。

2004年度は、東京大学東洋文化研究所と外務省アジア太平洋局地域政策課の資金援助を得て研究を実施した。具体的には、東南アジア国家連合の10カ国と日本・中国・韓国の計13カ国で世論調査を行った。その成果の公開に向けて刊行物を作成中である。

具体的な成果物 [刊行物] [Web公開]

Inoguchi, Takashi, Miguel Basáñez, Akihiko Tanaka and Timur Dadabaev, Values and Life Styles in Urban Asia (2005) .

Inoguchi Takashi (2004) "The AsiaBarometer: Its Aim, Its Scope, Its Strength," Japanese Journal of Political Science, Vol. 5 No. 1, pp. 179-196.

Inoguchi Takashi (2004) "Social Capital in Ten Asian Societies," Japanese Journal of Political Science, Vol. 5 No. 1, pp. 197-211.

ティムール・ダダバエフ (2004)「アジア・バロメータ データベース」猪口孝編著『アジア学術共同体 構想と構築』NTT出版、pp. 45-61.

<http://avatoli.ioc.u-tokyo.ac.jp/~asiabarometer/>

6 アジア研究情報ホームページ (Gateway) / 長沢 [研究情報]

全体計画

日本のアジア研究に関する情報を収集・発信するとともに、世界に開いた日本のアジア研究情報の窓口となるウェブサイトを構築し運営する。日本のアジア研究についての基本情報を提供する拠点となり、また研究者に最先端の研究動向や各種の研究情報を相互に交換する公的な情報交換の場となることを目指す。

今年度の進捗状況

第二年度である今年度は、日本語ホームページの基本的な内容と情報を充実させるとともに、英語版サイトの試験版を立ち上げた。英語版サイトの主なコンテンツは、以下のとおりである。研究エッセー、日本のアジア研究（日本のアジア研究機関、日本で出版された英文のアジア研究一覧、日本の大学でアジア研究をするためのガイド、アジア研究図書館）、世界のアジア研究（世界の主要研究機関、アジア諸国の図書館ガイド）

具体的な成果物 [Web公開]

アジア研究情報Gateway <http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

試行プロジェクト

7 ダイバー・コレクションのデータベース化 / 鎌田 [文献]

全体計画

本研究所所蔵のアラビア語を中心とする写本集成であるダイバー・コレクションの冊子体カタログをオンラインで利用可能なデータベース化し、そのオンライン・カタログから写本自体を参照できるようにする計画である。写本資料の利用が簡便になることで、テキストの出版がかならずしも十分でない西アジアの文献研究を大いに補完することをねらっている。

昨年度入力したテキストの点検を行うこと、データベースを開発すること、そこに張り込む写本画像のデジタル化を進めること、テキストをそのデータベースの枠組みに流し込むこと、を予定している。

今年度の進捗状況

写本カタログのテキストのデジタル化をほぼ終えた。ダイバー写本(Ⅰ)については原本の撮影からのデジタル化を行っており、全367写本のうち210写本のデジタル化が完了した。ダイバー写本(Ⅱ)についてはマイクロフィルム化されたものからデジタル化する作業を行い、全153写本のうちほぼ半分の量の作業を行った。

具体的な成果物

本年度は準備作業でおわったので具体的な成果はない

8 英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデータベース / 高橋 [文献]

全体計画

植民地期ビルマの土地・借金文書(通称チッティーサージョウツ)は、これまでのビルマ経済史研究の中で、全く利用されることがない。この史料の収集はまだ世界の誰も手をつけておらず、これを収集し、整理して、さらにデータベースを作成するならば、今後の英領植民地ビルマ経済史の研究にさらに新しい地平を切り開くことができるであろう。具体的な作業は、スキャナーで文書を読み取り、契約の内容(年月日、場所、当事者、抵当物件、借金額等)を英文で整理し、ファイルメーカーでフォーマットして、データベース化することである。

今年度の進捗状況

文書をスキャナーでスキャンし、ファイルメーカーに貼り付ける。文書の数が多いので、内容の英語への翻訳や内容の整理は今年度は行わない。

具体的な成果物 [Web 公開]

9 東京大学附属図書館所蔵南アジア関係の写本のデジタル化 / 永ノ尾 [文献]

全体計画

附属図書館にはサンスクリット及びチベット語の多くの写本が収蔵されている。それら諸本の多くは、既にマイクロフィルム化されている。本プロジェクトは、先ずそれらマイクロフィルム化されている写本のCD化を先ず行う。そして、それぞれのテキストの写本をインターネットを使って検索し、読むことができるシステムを構築し、ネット上で公開することをめざす。

今年度の進捗状況

今年度は、永ノ尾が個人的に所有する他機関の写本のマイクロフィルムをCD化し、それを検索し、読むシステムを試作した。これは、他機関の写本のマイクロフィルムを

12 東洋文化研究所所蔵タイ語書誌データベースの作成 / 池本 [文献]

全体計画

友杉孝名誉教授の旧蔵書を中心に、東洋文化研究所所蔵タイ語図書 2,400 冊の書誌データベースを作成し公開する。タイ語図書の国内所蔵数、NACSIS-CAT 図書書誌データ数 5,600 件弱と、はなはだ少ない。

ここに Unicode 対応タイ語書誌データベースを作成し公開することで、タイ語研究に大いに貢献することが期待される。

今年度の進捗状況

2004 年 9 月までに完成しているタイ語データにアルファベット翻データ追加。データベース構築作業、データ検収。当研究所の WEB において公開した。

具体的な成果物 [Web 公開]

「東洋文化研究所所蔵タイ語書誌データベース」

http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/thaidb/Thai_QueryInput.html

13 イスラーム地域造形資料のデータベース構築 / 梶屋 [造形]

全体計画

イスラーム建築写真資料のデジタル化・データベース化においては、35 ミリフィルムのスキャナーによるデジタル化を進め、逐次ホームページで公開する。また、デリーの検索ページを完成させる予定。イスファハーン古地図よりの地名データベース化は、検索システムの構築し、公開への準備を始める。日本所蔵のイスラーム美術作品データベース化は、さらに入力を進める。イル・ハーン朝タイルのデータベースでは、写真資料が入手できれば、作業を進める。

今年度の進捗状況

イスラーム建築写真のデジタル化・データベース化においては、従来のホームページの修正とともに、デリー検索ページをリンクさせ公開した。ホームページの英語ページの不足分を補った。35ミリフィルム1000カットをスキャナーでデジタル化すると共に包材を改めた。6×6フィルム900カットをデジタル化した。イスファハーン古地図よりの地名データベース化は検索システムの構築に着手した。

日本所蔵のイスラーム美術作品データベース化は 1602 件の入力がすんだ。イル・ハーン朝タイルについては、写真資料の到着が 2005 年 3 月であったため、作業は行わなかった。

具体的な成果物 [Web 公開]

「インド・イスラーム史跡データベース」最新更新日 2005 年 2 月 9 日データベースを利用しての成果

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml>

14 旧東方文化学院蔵考古資料のデジタル化 / 平勢 [造形]

全体計画

我が研究所には、先後旧東方文化学院から移管された資料が多数ある。図書資料以外に、考古資料も少なからずある。貴重な研究資料でありながら、現在に至るまで十分な整理がなされていない。本プロジェクトは、その整理をすすめて研究資料としての価値をより高めることを目的とする。その目的に沿い、考古資料のデジタル化を進める。

今年度の進捗状況

今年度は東方文化学院から移管された「研究資料」のうち、本所映像スタッフの協力によりデジタル化が可能な写真乾板から着手し、鳥居龍三や関野貞、常盤大定らの撮影した写真乾板約 1200 枚のデジタル撮影とその調査を行った。また図書室の書庫等に保管されていたガラス乾板（段ボール箱 12 箱分）および紙焼写真資料・アルバム等の調査を行った。これらの調査事項は A4 の調査票に一枚ずつ記入され、データベースソフトへの入力待ち状態にある。

具体的な成果物

「東洋文化研究所所蔵旧東方文化学院研究資料調査報告 写真資料編（仮題）」
（現段階では外部への公開ができないが、所内関係各所に 2005 年 6 月配布予定）

15 中央アジアの伝統的地域社会組織—マハッラー—研究データベース構築/ティムール ダダバエフ [研究情報]

全体計画

本プロジェクトの目的は、中央アジアにおける地域社会の一例であるマハッラーに関するデータベースを作成することである。具体的には、ウズベキスタン（特にタシケント、サマルカンド、フェルガナ盆地のアンディジャン、ナマンガン、フェルガナ地域）に関するデータと、マハッラーを研究対象とする研究機関へのリンク集作成などを含む。そのための主な作業は、資料・データの収集・整理・入力、現地調査などである。

今年度の進捗状況

2004 年 7-9 月に、ウズベキスタンのタシケント、サマルカンド、フェルガナ盆地のアンディジャン、ナマンガン、フェルガナ地域で第一回現地調査を行った。2005 年 3 月には、主にタシケントで第二回現地調査を行った。各現地調査では、研究対象である各地域の複数のマハッラーとネットワークを構築するとともに、各種データ（統計、地図、法律を含む）を収集した。その上で、それぞれの現地調査結果を検討・整理・入力した。本年度に成果の一部を公表したが、データベースの Web 上での最終的公開と出版物としての研究成果公表は 2005 年度を予定しており、継続した作業・研究の実施が必要である。

具体的な成果物

「中央アジア諸国の現代化における伝統的地域社会のあり方と役割 - ウズベキスタンの「マハッラー」を中心に」『東洋文化研究所紀要』第 166 冊、12 月、100-149 ページ。
「ウズベキスタンの地域社会『マハッラー』の現状と今後 人々の日常生活の視点から」、ACF 講座講演集「中央アジアを知る」、財団法人アジアクラブ、2005 年 5 月（予定）。

一般プロジェクト

16 東洋文化研究所 図書室 漢籍 検索 システム の 編 成 / 尾 崎

全体計画

当研究所所蔵漢籍データベースはほぼ完成したが、このデータベースのデータを、当研究所の漢籍出納のための検索に利用するには、図書の順調な出納を可能にするための若干のデータ（分冊番号）追加記入が必要であり、その作業を遂行するためのプロジェクトである。

今年度の進捗状況

初期の予定どおりに完成し、WEB上の検索データに反映しており、図書室の検索カードを使う必要がなくなった。

具体的な成果物 [Web 公開]

東洋文化研究所所蔵漢籍目録 (<http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html>) に反映されている。

17 ヒンドゥー儀礼基礎資料作製データベース / 永ノ尾

全体計画

ヴェーダ祭式からはじめ、現代にまで伝承されているポスト・ヴェーダ期のヒンドゥー儀礼に関するさまざまなレベルの情報の集積を目的としている。儀礼を伝える文献、個々の儀礼、さまざまな儀礼要素に関して、今までの研究、それらを記述するテキスト、さらには関連する儀礼や儀礼要素の間の相互関係が検索できるように、工夫しながら作製している。単なるテキストの入力ではなく、分析の視点を導入している。

今年度の進捗状況

今年度はグリヒヤストラが記述する vedavrata、Jaiminiya Brahmana のソーマ祭式の解釈、初期密教文献の Amoghapasakalparaja、ヒンドゥー教タントラ儀礼のさまざまなデータ、特に呪術に関連する情報などを中心にデータを収集した。2004年3月12日現在ファイルの総行数 70745、10,456,291 バイトのデータが蓄積されている。

具体的な成果物 [刊行物]

データそのものは公開されていないが、このデータベースに関して以下の紹介文がある。「ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資料」『明日の東洋学』December 2000 no. 4, pp. 2-3.

「CARD：ヒンドゥー儀礼研究のための基礎情報」『データベースの活用と人文社会科学』全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナーシリーズ No. 12, 2002, pp. 91-112。

18 戦後日本政治・外交データベース / 田中

全体計画

日本の内政・外交ならびに国際関係にかかわる重要な政治文書等(国会などでの演説、条約や共同宣言など国際的取り決め、政府文書、報告書等)の全文テキストを公開するプロジェクト。ひろく日本の政治・国際関係に関心を持つ者すべてにとって有益で便利なデータベースとなることを目指している。

今年度の進捗状況

2004年度は、「総理大臣記者会見」、「ASEAN関連文書」、中国語版の「日中関係資料集」と「戦後国際政治の基本文書」を作成・公開したほか、「国会内の外相演説」、「国会外の外相演説」、「多数国間条約集」、「日本と朝鮮半島資料集」をさらに充実させた。その他追加したテキストも含めて、年度中に465文書(6.4M Byte)を新規に公開した。

具体的な成果物 [Web 公開]

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>で、「データベース『世界と日本』」の部分データベースとして公開している。「データベース『世界と日本』」は、Yahooでは「国際関係」に関する唯一の「クール」なサイトであり、Googleのディレクトリーでは、「政治・行政」のページランク順で第一位である。

2. 公開・発信

(a) ホームページの更新・運営

センターホームページ (<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>) の充実をはかり、平成10年度～平成15年度の事業報告、平成10年度～平成16年度の漢籍整理長期研修の講師・課目・日程を追加した。また、15年度立ち上げた研究情報の提供を目的とする「アジア研究情報 Gateway」の公開情報の更新を行ってきた。

(b) 研究成果・データベースの公開

[“Central Asia Reconsidered: Old Problems, New Paradigms” by Timur Dadabaev a review article of Ichiro Iwasaki, Tomohiko Uyama and Hisao Komatsu, eds., Contemporary Central Asia: In-Depth Analysis of Political and Economic Transformation \(Tokyo: Nihon Hyoronshya, 2004.\)](#)

をPDFで公開した。

データベース「エジプト新編地誌」、「東文研所蔵タイ語書誌」のサービスを新たに開始した。「中国絵画所在情報データベース」に『中国絵画総合図録』続編のデータを追加した。

なお、平成16年4月1日から平成17年3月31日までのセンター関連サイトのアクセス数は下記のとおりである(判明するもののみ)。「東洋文化研究所所蔵漢籍目録」16,925件、「朝鮮族譜」92,119件「近代朝鮮関係書籍」18,193件、「中国近現代文学関係雑誌記事」6,522件「東文研所蔵中国語雑誌検索サービス」6,522件、「南アジア文献検索」1,592件、「インド・イスラーム史跡」4,868件、「イスラーム事典」53,403件、「データベース世界と日本」1,416,622件、「アジア・バロメーター」11,713件、「アジア研究情報ゲートウェイ」215,644件「江戸・明・古代プロジェクト」7,566件であった。

(c) アジア・デジタル展示館

本研究所が所蔵する貴重書、写真、考古資料等のデジタル化と公開を継続中である。

(d) 出版

東洋学研究情報センター叢刊第5輯『東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録』を刊行した。また、ニュースレター『明日の東洋学』は第12～13号(完全英語版)を刊行し、全てのバックナンバーのPDFファイルをホームページ上で配布している。アジアバロメータ2003世論調査の成果をもとにした本を『Values and Life Styles in Urban Asia』を刊行した。

(e) 漢籍整理長期研修

平成16年度は6月21日～9月10日に実施し、9名が受講した(日程及び受講者名簿は19～20頁を参照されたい)。6月21日～25日の1週間は人文社会系研究科文化資源学専攻の授業を兼ねており、本学の院生6名が受講した。

(f) 平成16年度全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー

当センターを含む5つの文献・情報センターが過去13回共同開催してきたが、今年度から、各センターが個別に企画・開催することになった。9月22日に所内において、当センタープロジェクト「アジア・バロメータ」に関するシンポジウムを実施した。

3. 平成16年度全国文献・情報センター長会議(第40回)

今年度は当センターが当番校で、2月4日(金)に東洋文化研究所大会議室で開催された。

C 新年度の事業目標

平成17年度は、センターの改組・拡充以来、これまで6年にわたって行ってきたセンター事業に対して抜本的な再検討を行う一方、センター校費に加えて、新たに外部資金を導入するなど、前年度より改めた点は継承しつつ、既存の事業の整理・統合を実施し、新規事業を展開する。

第一に、センター事業の基軸をなすセンタープロジェクトのうち、文献資料分野においては、従来どおり、古籍を中心とした多言語によるアジア電子図書館の構築というグランドデザインのもと、アジア各地域の多言語資料を順次データベース化し、その公開を継続的に実現してゆく。センター校費に加えて科学研究費補助金をも投入したこの事業の重点は、研究蓄積が進んでいる東アジアの漢籍資料に置く。また、造形資料分野においては、新規事業として、やはり科学研究費補助金とセンター校費とを基盤として、従来から継続してきた中国絵画のそれを中核とするアジア美術画像資料アーカイブの構築を開始する。また、文献・造形両資料分野にまたがるものについては、これまでの成果を受けつつ、新たに獲得する予定の科学研究費補助金によって、さらに東洋文化研究所所蔵写真資料のデータベース構築を推進する。なお、本項目で言及したプロジェクトに関わる個別のプロジェクトについては、別表を参照されたい。

第二に、一昨年平成15年度から開始した新しい型の研究情報プロジェクトについては、アジア・バロメーターの一層の充実を目指す。また、同年のASEAN+3首脳会議で合意された東アジア研究者ネットワークの構築事業の事務局を担当する。

第三に、研究所内外の研究成果の公開・発信事業としては、同じく平成15年度から開始したアジア研究情報ゲートウェイを維持・発展させる。また、これまで四半世紀にわたって継続してきた漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニューズレター『明日の東洋学』及び内外の研究者を編者に迎えて、東洋学関係の各種資料を公開する『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行する。さらに、全国文献・情報センター長会議や同共催セミナーへの参加をはじめ、学内外の関係機関との交流を促進する。

上記に述べた積極的な事業展開のためには、センター校費だけでは不十分であることは改めて言うまでもない。昨年度に引き続き、科研費などの競争的経費を獲得して各種事業を展開するとともに、安定的な資金の確保をも模索したい。また、センタープロジェクトの発展に伴い、作業スペースを拡大するとともに、各種データベースや文献・造形資料などの公開スペースを確保することも、センター改組・拡充以来の重要な課題である。

これまでのセンター校費プロジェクト一覧

	プロジェクト名 / 担当教官	H11	H12	H13	H14	H15	H16	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	
1	現代中国書データベース / 岡本	セ	[一般]					国立情報学研究所にデータ提供。情報学研究所の公開開始までは当センターが同データベースを公開(現在は終了)。
2	Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書構築 / 鈴木(隆)	セ	[一般]					Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書を公開(現在は作成者の所属機関 = 山口大にサーバを設置)。 http://suzuki.ypu.jp/edic/
3	内蒙古出土学術資料のデータベース化 / 後藤	セ	重点	重点				データベースを所内限定公開。2003年横浜ユースアジア文化館、2004年古代オリエント博物館に資料を出陳。
4	インド・イスラム史跡データベース / 中里, 深見	セ	重点	重点				データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml
5	東アジア族譜データベース / 宮嶋	セ	重点	重点				データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~korean/db/zokufuindex.htm
6	倉石文庫漢籍目録の作成とデータベース化 / 高見沢, 丘山, 尾崎	セ	重点	重点	重点			東洋文化研究所漢籍目録データベースに収録して公開。 http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html
7	中国絵画デジタルアーカイブプロジェクト / 板倉, 小川	セ	重点	重点	重点	重点		データベースを試験公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ No. 19 に発展的に継続。
8	東洋文化研究所所蔵中国雑誌目録の作成とデータベース化 / 尾崎		試行	試行	試行	試行		データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/cnmqz.html No. 22 に発展的に継続
9	在外日本企業作成資料のデータベース化 / 濱下			試行	重点	試行	試行	
10	アジアの世論調査の現状と展望(アジア・バロメーター) / 猪口				重点	重点	重点	ウェブサイトを開発。 http://avatoli.ioc.u-tokyo.ac.jp/~asiabarometer/ 刊行物:「東洋文化研究所ディスカッションペーパー」2003年、 『Values and Life Styles in Urban Asia』 2005年。

	プロジェクト名 / 担当教官	H11	H12	H13	H14	H15	H16	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	
11	東洋文化研究所所蔵 「荒木文書」のデジ タル情報化 / 大田				重点	重点	重点	刊行物: 東洋学研究情報センター叢 刊第4輯『東京大学東洋文化研究所 所蔵清朝建築関係史目録』2004年、 『東京大学東洋文化研究所所蔵 清朝建築図様図録』2005年。
12	イスラーム地域文献 資料データベース構 築 / 長澤				重点	重点		No. 18 に発展的に継続。
13	イスラーム地域造形 資料データベース構 築 / 榎屋				試行	試行	試行	データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~i slamarc/WebPage1/htm/index.shtm l
14	貴重漢籍の補修とデ ジタル化 / 丘山					重点	重点	「東洋文化研究所所蔵漢籍善本全 文映像資料庫」として、 http://neworiens.ioc.u-tokyo.ac.jp /kanziim/ で公開準備中。
15	アジア研究情報ホー ムページ / 長澤					試行	重点	ウェブサイトを開。 http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/
16	ダイバーコレクション のデータベース化 / 鎌田					試行	試行	写本のデジタル化進行中。
17	英領植民地ビルマに おける借金文書の整 理とデータベース化 / 高橋					試行	試行	
18	西アジア近代史文献 資料データベース構 築 / 長澤						重点	データベースを開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.j p/ShinPenChiShi_Index.html
19	中国絵画資料の収集 とデジタル化 / 板倉						重点	続編データをアップし公開。 http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/
20	東京大学附属図書館 所蔵南アジア関係の 写本のデジタル化 / 永ノ尾						試行	
21	南アジアの言語の辞 書のデジタル化 / 永 ノ尾						試行	

	プロジェクト名 /担当教官	H11	H12	H13	H14	H15	H16	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	
22	東文研所蔵中国雑誌データベースおよび中国近現代文学関係記事データベースのメンテナンス / 尾崎						試行	データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/
23	東文研所蔵タイ語資料データベースの構築 / 池本						試行	データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/thaidb/Thai_Index.html
24	旧東方文化学院所蔵考古資料のデジタル化 / 平勢						試行	
25	中央アジアの伝統的な地域社会組織 マハッター研究データベース構築 / ダダバエフ						試行	『東洋文化研究所紀要』第 166 冊 100-149p.
26	東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース	一般	一般	一般	一般	一般	一般	データベースを公開。 http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html
27	江戸・明・古代プロジェクト			一般	一般	一般	一般	データベースを公開。 http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edo2/edo.cgi/
28	ヒンドゥー儀礼基礎資料作製データベース						一般	
29	戦後日本政治・外交データベース						一般	データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html

東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター叢刊既刊一覧

東洋学研究情報センター叢刊

- 第1輯 東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002 .
- 第2輯 東京大学東洋文化研究所所蔵夕嵐草堂文庫目録 2003 .
- 第3輯 東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤義教文庫目録 2004 .
- 第4輯 東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史料目録 2004 .
- 第5輯 東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録 2005 .

東洋学文献センター叢刊

- 第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和41年度)1968 .
- 第2輯 清代地方劇資料集(一)1968 .
- 第3輯 清代地方劇資料集(二)1968 .
- 第4輯 周揚著訳論文・周揚批判文献目録 1969 .
- 第5輯 郁達夫資料 1969 .
- 第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和42・43年度)1970 .
- 第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(上)1970 .
- 第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(中)1970 .
- 第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(下)1970 .
- 第10輯 李大 文献目録 1970 .
- 第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970 .
- 第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970 .
- 第13輯 魯迅全集注釈索引 1971 .
- 第14輯 1930年代中国文芸雑誌(一)1971 .
- 第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(1)1972 .
- 第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(2)1972 .
- 第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(3)1972 .
- 第18輯 郁達夫資料補篇(上)1973 .
- 第19輯 切韻残卷諸本補正 1973 .
- 第20輯 目録学 1973 .
- 第21輯 花間集索引 1974 .
- 第22輯 郁達夫資料補篇(下)1974 .
- 第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(一)1975 .
- 第24輯 江西蘇区文学運動資料集 1976 .
- 第25輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(二)1976 .

- 第 26 輯 民国以来人名字号別名索引 1977 .
- 第 27 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (一) 1978 .
- 第 28 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (三) 1978 .
- 第 29 輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録 1978 .
- 第 30 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (四) 1979 .
- 第 31 輯 儀礼疏攷正 (上) 1979 .
- 第 32 輯 儀礼疏攷正 (下) 1979 .
- 第 33 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (五) 1980 .
- 第 34 輯 小説月報 (1920 - 1930) 總目録 1980 .
- 第 35 輯 コミンテルン定期刊行物 中国關係論説・記事索引 1981 .
- 第 36 輯 魯迅文言語彙索引 1981 .
- 第 37 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (二) 1981 .
- 第 38 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (三) 1982 .
- 第 39 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (六) 1983 .
- 第 40 輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説 (上) 1983 .
- 第 41 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (四) 1983 .
- 第 42 輯 校合本 大越史記全書 (上) 1984 .
- 第 43 輯 『植民地雜誌』(Koloniaal Tijdschrift) 所収論文目録 1984 .
- 第 44 輯 校合本 大越史記全書 (中) 1985 .
- 第 45 輯 江西蘇区紅色戲劇資料集 1985 .
- 第 46 輯 宋之間詩索引 1985 .
- 第 47 輯 校合本 大越史記全書 (下) 1986 .
- 第 48 輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説 (下) 1986 .
- 第 49 輯 許舒博士所輯 広東宗族契拋彙録 (上) 1987 .
- 第 50 輯 沈イ期詩索引 1987 .
- 第 51 輯 中華人民共和国・朝鮮民主主義人民共和国 職官歴任表 1987 .
- 第 52 輯 韓国政治エリート研究資料 - 職位と略歴 - 1987 .
- 第 53 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (五) 1988 .
- 第 54 輯 許舒博士所輯 広東宗族契拋彙録 (下) 1988 .
- 第 55 輯 南嶽思大禪師立誓願文索引 - 六朝隋唐宗教・思想資料 - 1988 .
- 第 56 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (六) 1988 .
- 第 57 輯 郁達夫資料總目録附年譜 (上) 1989 .
- 第 58 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (七) 1989 .
- 第 59 輯 郁達夫資料總目録附年譜 (下) 1990 .
- 第 60 輯 山西票号資料 書簡篇 (一) 1990 .
- 第 61 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事總目 (八) 1990 .

- 第 62 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目 (九) 1991 .
- 第 63 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目収載雑誌名索引
1992 .
- 第 64 輯 許壽裳日記 (自 1940 年 8 月 1 日至 1948 年 2 月 18 日) 1993 .
- 第 65 輯 許舒博士所蔵商業及土地契約文書 乾泰隆文書 (1) 1995 .
- 別輯 1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録 (書名・人名索引)
京都大学人文科学研究所漢籍分類目録 (書名・人名通檢)
- 別輯 2 海外所在中国絵画目録 (アメリカ・カナダ編) 1977 .
- 別輯 3 海外所在中国絵画目録 (東南アジア・ヨーロッパ編) 1981 .
- 別輯 4 日本所在中国絵画目録 (寺院編) 1982 .
- 別輯 5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982 .
- 別輯 6 日本所在中国絵画目録 (博物館編) 1982 .
- 別輯 7 日本所在中国絵画目録 (個人蒐集編) 1983 .
- 別輯 8 中国經濟關係雑誌記事総目録 (一) - 『中外經濟周刊』『經濟半月刊』『工商半月刊』 - 1983 .
- 別輯 9 孟郊詩索引 (上) 1984 .
- 別輯 10 孟郊詩索引 (下) 1984 .
- 別輯 11 中国經濟關係雑誌記事総目録 (二) - 『國際貿易導報』 - 1985 .
- 別輯 12 中国經濟關係雑誌記事総目録 (三) - 『中行月刊』 - 1985 .
- 別輯 13 『内務行政雑誌』所収論文・記事目録 (A Catalogue of the Articles in Tijdschrift
voor het Binnenlandsch Bestuur) 1985 .
- 別輯 14 中国經濟關係雑誌記事総目録 (四) - 『銀行週報』(上) - 1987 .
- 別輯 15 春秋晋国『侯馬盟書』字体通覧 - 山西省出土文字資料 - 1988 .
- 別輯 16 中国經濟關係雑誌記事総目録 (五) - 『銀行週報』(下) - 1989 .
- 別輯 17 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (ヨーロッパ編) 1992 .
- 別輯 18 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (アメリカ・カナダ編 上 本文編) 1994 .
- 別輯 19 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (アメリカ・カナダ編 下 索引編) 1994 .
- 別輯 20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995 .
- 別輯 21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (東アジア編) 1997 .
- 別輯 22 日本所在中国絵画目録 続編 1998 .
- 別輯 23 天津史文献目録 1998 .
- 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999 .

大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection, 1988.

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, 1996.

平成16年度東洋学研究情報センター 決算

予算及び決算

(単位：千円)

予算科目	当初予算	追加配分	決算額	備考
(目) 諸謝金	680		735	
(目) 員等旅費	250		224	
(目) 職員旅費	560		167	
(目) 校費	14,860	1,000	16,222	所長裁量経費より追加配分
計	16,350	1,000	17,348	

決算額内訳

(単位：千円)

予算科目	内訳	決算額	備考
(目) 諸謝金	漢籍整理講習会講師謝金 ニューズレター原稿料 講演謝金	666 69 0	
(目) 員等旅費	漢籍整理講習会講師旅費 漢籍整理講習会受講生旅費 研究所主催研究会旅費	224 0 0	
(目) 職員旅費	5センター関係 調査研究等 研修出張	167 0 0	
(目) 校費	継続資料費(新聞・雑誌) デジタル化推進費 備品費 ニューズレター出版費 センター叢刊出版費 消耗品費 会議費 通信費 複写費 センタープロジェクト費 追加配分(英文サイト構築費) 計	554 0 145 324 343 1,103 0 246 189 12,320 998 16,222	内訳は次ページ参照

使用したために、一般公開はできない。プロジェクトのメンバーと検討し、来年度からの作業のために検討を加えた。

具体的な成果物 [Web 公開]

上記(2)の理由のため、今年度は公開用の成果は特になし

10 南アジアの言語の辞書のデジタル化 / 永ノ尾 [文献]

全体計画

以前東洋文化研究所に助手として勤務していた鈴木隆泰氏(現在山口県立大学助教授)は、東文研の時代から「Tibetan-Sanskrit 構文対象電子辞書 eDic」のプロジェクトを開始した。このプロジェクトはサンスクリット文献とそのチベット語訳を、構文単位で入力し、サンスクリット文献とチベット語訳を同時に検索し、比較検討を容易にするシステム構築をめざす。

今年度の進捗状況

今年度は八千頌般若経と金光明最勝王経のサンスクリットテキストとチベット語訳の一部を入力した。なお、2005年2月20日に検討会を開催し、来年度からのプロジェクトの進め方について検討した。この検討会に参加した新たなメンバーを加え、より多くのテキストを分担して入力していくこととなった。

具体的な成果物

従来成果は <http://suzuki.ypu.jp> の eDic Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書構築プロジェクトでみる事ができる。

11 東洋文化研究所所蔵中国語雑誌データベースおよび中国近現代文学関係雑誌記事データベースのメンテナンス / 尾崎[文献]

全体計画

両データベースは2003年度に一応の完成をみたが、データの修正・追加などのメンテナンスを行う。

今年度の進捗状況

「東洋文化研究所所蔵中国語雑誌データベース」は2003年夏までのデータであったが、これを2004年8月のデータで Up Date、WEB上で公開した。

「中国近現代文学関係雑誌記事データベース」は、既成旧 GB コードを GBK (Unicode ベース) にして、空白文字のほとんど計約 250 箇所を原材料に当たって確認しつつ埋めた。また、入力ミスによる記号の文字化け部分計約 300 箇所の訂正をした。そのほか、雑誌欠号部分ほかを補充し、計 4,000 余件の追加入力をした。

具体的な成果物[Web 公開]

「東洋文化研究所所蔵中国語雑誌データベース」

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/cnmgz.html>

「中国近現代文学関係雑誌記事データベース」

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/>

平成16年度漢籍整理長期研修 日程・課目・講師

日 程	課 目	9:00～ 12:00	13:00～ 17:00	講 師	備 考
6月21日(月)	開講式(9:30～) オリエンテーション			田中明彦 (東洋学研究情報センター長) 長澤榮治 (東洋学研究情報センター主任)	
6月21日(月)	漢籍版本目録概説	講義	講義	大木康 (東洋文化研究所教授)	
6月22日(火)	四部分類について	講義	講義	井波陵一 (京都大学教授)	
6月23日(水)	漢籍データベースの利用と構築	講義	講義	安岡孝一 (京都大学助教授)	
6月24日(木)	漢籍整理実習 第一部(1)	実習	実習	陳捷 (国文学研究資料館助教授)	
6月25日(金)	朝鮮本について	講義	講義	藤本幸夫 (富山大学教授)	
6月28日(月)	午前: 四角号碼検字法について 午後: 中国現代書について	講義	講義	高見澤磨 (東洋文化研究所教授)	
6月29日(火)～ 30日(水)	漢籍整理実習 第一部(2)	実習	実習	陳捷 (国文学研究資料館助教授) 橋本秀美 (東洋文化研究所助教授)	
7月1日(木)	東洋文庫について	講義	講義	中善寺慎 (東洋文庫司書)	東洋文庫見 学を含む
7月2日(金)	中国書史概説	講義	講義	高津孝 (鹿児島大学教授)	
7月5日(月)～ 9月3日(金)	所属図書館所蔵漢籍整理及び 研究	自習	自習		
9月6日(月)	午前: 漢籍整理実習 第二部(1) 午後: 国立情報学研究所の事 業と漢籍について	実習	講義	大木康 (東洋文化研究所教授) 宮澤彰 (国立情報学研究所教授)	
9月7日(火)	午前: 東文研漢籍データベー スについて 午前: 漢籍データベースの公 開について 午後: 漢籍整理実習 第二部(2)	講義	実習	丘山新 (東洋文化研究所教授) 平勢隆郎 (東洋文化研究所教授) 大木康 (東洋文化研究所教授)	東大総合図 書館、文学部 漢籍コナ-見 学を含む
9月8日(水)	和刻本について	講義	講義	長澤孝三 (元国立公文書館内閣文庫長)	
9月9日(木)	漢籍補修法	講義	講義	安藤清 細井 歌寿男 (宮内庁書陵部)	
9月10日(金)	漢籍文庫経営法	講義	講義	高橋智 (慶應義塾大学助教授)	
9月10日(金)	修了式(16:30～)			田中明彦 (東洋学研究情報センター長) 長澤榮治 (東洋学研究情報センター主任)	

都合により課目・講師等を変更することがあります。

平成16年度漢籍整理長期研修研修員名簿

No	所属図書館	氏名	
1	筑波大学附属図書館	うえはら ゆき 上原由紀	
2	東京大学総合図書館	たがわ ひで 田川ヒデ	
3	新潟大学附属図書館	たかはし ちか 高橋千夏	
4	京都大学人文科学研究所	おおにし まさと 大西賢人	
5	明治大学図書館	くわばら りえ 桑原理恵	
6	慶応義塾大学三田メディア センター	よしだ まきこ 吉田真希子	
7	佛教大学図書館	わきざか あきら 脇阪暁	
8	東京都立中央図書館	かとう さとえ 加藤里絵	
9	大倉集古館	しぶや ふみとし 渋谷文敏	

平成16年度センター<校費>プロジェクト決算報告

(単位:千円)

件数	プロジェクト名称	担当教官	予算	決算
1	貴重漢籍の補修とデジタル化【古】【多】	丘 山	11,445	10,974
2	西アジア近代史文献資料データベース構築【古】【多】	長 澤	1,860	1,837
3	在外日本企業作成資料のデータベース化	濱 下	700	804
4	ダイバーコレクションのデータベース化【古】【多】	鎌 田	1,630	1,485
5	英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデータベース化【古】【多】	高 橋	970	832
6	東京大学附属図書館所蔵南アジア関係の写本のデジタル化【古】【多】	永ノ尾	300	1,658
7	南アジアの言語の辞書のデジタル化【古】【多】	永ノ尾	800	438
8	東文研所蔵中国雑誌データベースおよび中国近現代文学関係雑誌記事データベースのメンテナンス	尾 崎	0	0
9	東文研所蔵タイ語資料データベース構築【古】【多】	池 本	960	940
10	東洋文化研究所所蔵『荒木文書』のデジタル情報化	大田 長澤	1,200	1,306
11	中国絵画資料の収集とデジタル化	板 倉	2,280	864
12	イスラーム地域造形資料のデータベース構築	梶 屋	1,959	1,915
13	旧東方文化学院所蔵考古資料のデジタル化	平 勢	0	0
14	アジア・バロメーター	猪 口	2,000	1,983
15	アジア研究情報ホームページ(Gateway)	長 澤	3,741	4,623
16	中央アジアの伝統的な地域社会組織 マハッター研究データベース構築	ダダバエフ	755	755
計			30,600	30,418

【古】「アジア古籍電子図書館」のサブプロジェクト。【多】「多言語デジタルライブラリ」のサブプロジェクト。

「アジア研究情報ホームページ」プロジェクトに所長裁量経費1,000,000円含む